All for you
ふそう耳より情報
WINTER 09

FUSO

寒さに負けないで

安心・安全のために、確実な点検&整備を!

点検・整備には、大きな事故につながる重要な項目も含まれています。毎日の安心・安全な運行のためだけでなく、車両を永くご使用いただくためにも、忘れずに点検・整備を行いましょう。

トラック・バスに関するご質問などがございましたら、三菱ふそうのスタッフまでお申し付けください。

事故を未然に防ぐためのお願い 1

ディスク・ホイール取付状態の日常点検

大型車は、車輪脱落事故を防止するために、ディスク・ホイールの取付状態の点検が義務付けられています。「走る」「曲がる」「止まる」、すべてを支えるタイヤ回りの点検は、確実に行いましょう。

対象車両	大型トラック・バス	車両総重量8トン以上のトラック、または乗車定員30人以上のバス

【日常点検】

1 目視での点検

- ホイール・ナットの脱落やホイール・ボルトの折損はないか。
- ホイール・ボルトのまわりに錆汁がでた痕跡はないか。
- ホイール・ナットから突出しているホイール・ボルトの長さに不揃いはないか。

2 点検ハンマなどを用いての点検

- ホイール・ボルトの折損やホイール・ナットの緩みがないか、ホイール・ナットの下側に指を添えて点検ハンマでホイール・ナットを締まる方向に叩いたときに、指に伝わる振動が他のホイール・ナットと異なったり、濁った音がしないか。

3か月点検・12か月点検も必ず行ってください。

事故を未然に防ぐためのお願い 2

ホイールナット増し締め

サービス工場にてホイールの脱着作業（12か月法令点検等で）を行った場合、ホイールナットの締付力は、ホイール取付後の走行による初期なじみによって、低下します。ホイール脱着作業後、**50～100km走行を目安に増し締め**を行ってください。この大切な作業が、事故を未然に防ぎます。

増し締めを行った際は、必ずメンテナンスノートに記録しましょう。

ご注意 冬タイヤに交換など、ご自身でホイール脱着をされた場合でも、増し締めは必要です。忘れずに行ってください。

点検時のポイント

「締付トルク」の重要性

整備解説書の各整備項目には、必ず「締付トルクの規定値」が示されています。ご自身でメンテナンスされる際、ナットを緩みにくくするため、つい必要以上の力でボルトを締め付けてしまいがちですが、これは大きな間違いです。ボルトには適正な「軸力」があり、それを大幅に超えるとボルトやネジ部が損傷し確実に締め付けることができなくなります。このような状態になると肝心の軸力が発生せず、締付トルクが規定値以下の場合と同じ状態になってしまいますので注意しましょう。締付トルクは高くても低くても支障が出るため、整備解説書の規定値に従って締付を行ってください。

見えない危険がココにも？

フレームを錆から守る整備術！

フレームや足回りの錆による腐食は、取り付け部品の性能を低下させたり、最悪の場合は、錆による板厚減少によってフレームの折損につながることがあります。そのため、防錆力を確保する日常点検は、安全・安心に運行するためには欠かせない作業です。また、錆を促進させる要因である融雪塩が多く使われる冬に備えて、三菱ふそうサービス工場にて適切な点検を受けられることをおすすめします。車両をより永く使い続けるためにも、メンテナンスを忘れずに行いましょう。

■融雪塩（凍結防止剤）
■煤煙、油煙、粉塵、鉄粉、石灰粉などの科学物質
■海塩粒子（海水、波しぶき、潮風）
■樹液、鳥の糞、虫の死骸

防錆のための定期メンテナンス要領

メンテナンス作業	部　位	点検時期
フレーム及び足回りの洗車	・キャブ&シャシ ・ボデー	厳寒期を除き、運行後、毎日実施
錆の発生部はワイヤーブラシ等で除去し、防錆塗装または防錆ワックスを塗布（いずれも水や泥を除去後に実施）	・タイヤスプラッシュを受ける部位 ・水や泥が内部に溜まりやすい部位	トラックは1年ごと、バスは6か月ごと
床下全面に防錆塗装を実施	・シャシ全体	車検時、定期塗装

洗浄方法

- ●シャシ部品に付着した融雪塩、泥、埃等は高圧洗車機で洗浄する。
- ●特にシャシフレームやシャシ足回り部品等は、融雪塩の影響により錆が発生しやすく、そのまま放置しておくと腐食が進行し、亀裂や折損に至る恐れがあるので入念に洗浄する。
- ●洗浄の水は塩分を含まない水（水道水）を使用する。
- ●シャシフレームのサイドメンバーが箱型断面構造を採用している車両は、サイドメンバーの側面に空いている穴（ϕ25mm程度）から内部洗浄する。
- ●洗浄後、錆のある部分は錆を除去し、洗浄乾燥後に防錆塗装を施す。

<フレーム折損の事例>

※高圧洗車機で洗浄する際は、ラジエータやエアコンのコンデンサーに直接あてないでください。
また、ハーネス、電気系バルブ、コネクタ等に水が浸入しないようくれぐれも注意しましょう。

定期的に確認・清掃が必要な箇所の事例

サスペンション周りの堆積物

カバーやプロテクタ内部は泥や石灰などが溜まりやすい

フレーム内部堆積物

石灰や融雪塩が付着しやすい

フランジ部、アクスル部の錆

融雪塩が直接かかり錆が早く発生しやすい

溶接部、板合わせ部

最も錆が発生しやすい

スーパーグレート セミトラクター 箱型マフラのご注意

スーパーグレート セミトラクター（FV-R・FP-R）搭載の箱型マフラは、外側にステンレスの遮熱板が付いているため、マフラの腐食状況が外観から確認しづらい構造となっています。洗車や冬季の融雪塩などの影響で、マフラ本体の腐食が進行している場合がありますので、右記要領で腐食状況を確認し、著しい損傷がある場合は三菱ふそうサービス工場で点検・補修を受けてください。なお、マフラの損傷状況は3か月ごとの法令点検項目ですので、腐食が進んでいないか定期的な点検をお願いいたします。

腐食例（遮熱板を外した状態）

遮熱板取付けブラケットが腐食により破損

■点検要領 ※エンジン始動前のマフラが冷えている状態で実施ください。

箱型マフラの右下角部の腐食状況（車両後方部の下側コーナに赤錆の有無）を目視で確認してください。（左図参照）
赤錆が発生している場合は、側面の遮熱板を取り外し、マフラ本体およびブラケット類の腐食状況を確認してください。

腐食による著しい減肉がある場合は三菱ふそうサービス工場に点検・補修を依頼してください。

異常がない場合は、遮熱板を元通りに組付けてください。その際、ボルトは11N・mで締付けてください。

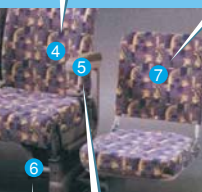
大型・中型・小型バス

シートの点検・整備のポイント

ご利用される皆様に安全・快適に使っていただくために、客席シートの日常点検と清掃の実施をお願いいたします。取付部のゆるみ、脚、グリップ、灰皿の破損などの異常が見つかったら、お近くの三菱ふそうサービス工場で整備を受けてください。

路線バスの客室内

観光バスの客室内

- シートバック表皮の破れ、突起物等の有無
- アームレストの変形、破損
- 取付部のゆるみ
- 補助席シートの変形、破損、表皮の破れ
- 取付部のゆるみ
- シートベルトの嵌合、ベルトの損傷
- リクライニングレバーの変形、破損
- 取付部のゆるみ
- グリップのゆるみ、変形、破損
- 灰皿、アクセサリーの破損
- クッション表皮の破れ、突起物の有無
- 脚部の変形、破損
- 取付ボルトのゆるみ
- バックパネルの変形、破損

名称	①シートバック ②クッション ③シートベルト ④アームレスト ⑤リクライニングレバー ⑥レグ（脚）⑦補助席 ⑧バックパネル ⑨グリップ（手掛け）、アクセサリー

小型バス（路線仕様車） ドア開閉スイッチのご注意

走行中にオートステップスイッチを操作する際、誤ってドア開閉スイッチの「開」側を押さないよう十分ご注意ください。

路線仕様車のドア開閉スイッチは、シーソ式で押した側で保持されるタイプです。誤ってドアスイッチが「開」側に押された場合、走行中にドアが開くことはありませんが、車両停車しギヤをニュートラルにした際、思いがけずドアやオートステップが作動します。

オートステップスイッチ

ドア開閉スイッチ

大型 中型 トラック・バス

PCV（吸気還元）バルブの ブローバイガス フィルターエレメント交換

PCVとは、大型・中型トラック・バスの新短期・新長期排出ガス規制適合車に搭載されているブローバイガス吸気還元システムのことです。エンジン内部で発生するブローバイガスを、大気に放出することなく再び燃焼室内へ吸入し燃焼させるもので、そのPCVバルブにはフィルターエレメントが付いています。ブローバイガスからのオイルとガスを分離するための大切なパーツですので、忘れずに交換しましょう。

交換を怠ると思わぬトラブルが！ エンジン内部圧力が上昇し、オイル漏れの原因になります。

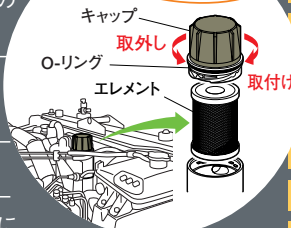
交換時期		
	大型トラック・バス	1年又は10万kmごと
	中型トラック・バス	1年又は3万kmごと

各車両の取扱説明書を参照の上、交換を行ってください。
【注意】キャップの脱着の際、工具などを使用しないでください。

交換方法

1. 交換時にゴミなどが入らないよう、PCVバルブのキャップ周りを清掃します。
2. キャップを手で左に回し取り外します。
3. エレメントを取り外します。
4. キャップのO-リングを新品に交換します。新品のO-リングにはエンジンオイルを薄く塗り、ねじれないように注意し取り付けてください。
5. 新品の純正エレメントを取り付けます。
6. キャップを手で右に回し取り付けます。キャップは少し浮き上がった状態で止まる位置まで確実に回して取り付けてください。

手順を守り確実に取り付けましょう！

キャップ　取外し　O-リング　エレメント　取付け

エレメント廃却時は地方自治体の条例に従って処理します。
処理が難しい場合は、三菱ふそうサービス工場にご依頼ください。

車両火災の恐れもあります！

オーバーヒート状態での走行は危険です

水温計の針がレッドゾーンを指した状態（オーバーヒート）のまま走行を継続すると、エンジンの焼付きや車両火災などの重大な不具合を招く恐れがありますので、直ちに安全な場所に停車してください。

オーバーヒートをさせないために

今一度、エンジン冷却系統の点検をお願いします。

- エンジン冷却水量は適量ですか？
- 冷却水の漏れがありませんか？
- ラジエータ、インタークーラ前面に、汚れ・詰まりなどがありませんか？
- ファンベルトの張りは適正ですか？

それでも オーバーヒートしてしまったら

直ちに、安全な場所に停車し、エンジン回転数をアイドリングより高めに設定して、冷却水温度が下がるのを待ちます。水温計の針が目盛りの中央付近まで下がったら、エンジンを停止し、以下を点検（処置）します。

- **冷却水の漏れ** ▶ **修理**
- **ファンベルトの切れ・緩み** ▶ **交換・調整**
- **ラジエータ*、リザーバタンクの冷却水量** ▶ **不足していたら補給**
  *水温が高い時にラジエータキャップは絶対に外さないでください。熱湯や蒸気が噴出し、火傷の恐れがあります。
- **ラジエータ前面のゴミなどの詰まり** ▶ **汚れていたら清掃**

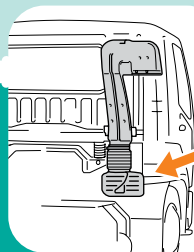
冷却水漏れがあったり、たびたびオーバーヒートするときは冷却系統の故障ですので、お近くの三菱ふそうサービス工場で点検をお受けください。

重要なお知らせ

電動キャブチルト車

キャブチルトダウン操作時のご注意!!

1 操作レバーが “DOWN” 側に動かない、または動きにくいときは、安全装置が作動していますので、無理に動かさないでください。
安全装置を解除するときは、一旦、操作レバーまたは手動ポンプでキャブをいっぱいまで上げてから、再度、降ろしてください。繰り返し操作レバーが動かなくなるときは、お早めに三菱ふそうサービス工場で点検をお受けください。

無理に操作すると不具合が発生する場合もありますのでご注意！

2 吸気ダクトのゴムブーツが確実に合っていることを確認してください。

3 キャブを降ろすときは、エンジンルーム内にウエス（布）など燃えやすい物や工具などの置き忘れがないか確認してください。燃えやすい物を置き忘れると火災を起こす恐れがあります。

ちょっとした忘れ物でも重大な事故に！

4 キャブのロックを確実に行ってください。不完全のまま走行してしまうと、振動でキャブが上がり重大な事故につながる恐れがあります。

点検作業は最後まで確実に！

点検は正しい方法で正確に、安心・安全な運行につなげましょう！

冬に備えてクルマをしっかり点検!

冬はクルマにとって厳しい季節です。 万全の準備をして冬を迎えましょう。

LLCの濃度をチェック

普段運行している土地の最低気温に見合ったLLCの濃度になっているかを確認しましょう。

LLCの濃度が30%以下になると防錆効果が劣るため、
気温が−10℃以上の地域でも、
最低30%以上になるように濃度を設定してください。

冬用のエンジンオイルを

夏用のエンジンオイルは粘度が高いので、そのまま冬まで使うと始動困難や潤滑不良を生じます。必ず冬用を使いましょう。

タイヤチェーンの準備は?

後輪はなるべくダブルのチェーンの装備を。県によっては条例でシングルは認めないところもあります。

<装着する前に!>

- 装着方法を取扱説明書で再確認!
- タイヤチェーンに錆がないか確認!

バッテリは大丈夫?

バッテリ液の量・比重は適当ですか?暖かい地方で働いても寒冷地へ行ったら突然ダメ、ということもあるのでご注意を。

サーモスタットも見よう

夏に水温が低すぎるクルマは、サーモスタットの作動温度やオートクールファンの作動状況も点検しておきましょう。

雪道のタイヤ

タイヤの山が5〜6分に摩耗したら、スノータイヤとしての性能限度は半減するので危険。古くなったら思い切って交換を。

雪の多い地域には、スノーワイパーがオススメ!

雪によってワイパーが凍り付かないように、ブレードがラバーで覆われている冬用のワイパーです。クリアな視界を確保するために万全な準備をしましょう。

いざというときに困らない冬の運転について

寒冷時での長時間の駐車はハンドブレーキを引かない

冬はブレーキ装置が凍結する恐れもあるので、駐車ブレーキをかけないでください。

- ギヤシフトレバーはR(後退)に。
- クルマが動かないように輪止めをかけましょう。

アクセルワイヤも凍結するので要注意!

ブレーキは小刻みに

急ブレーキはスリップのもと。軽く小刻みに、なんべんも繰り返し踏むのが最良の方法です。

ゆっくりと、でも止めないこと

雪道では十分に安全を考えて走りましょう。なるべくクルマを止めないように、車両間隔や徐行区間を見極めて走ることが大事。特に上り坂での停止は、発進が大変なので、止めないように走るのがコツ。

冬のトラック装備品

万が一の時の為に備えておきましょう。

- けん引ロープ
- 毛布
- チェーン
- スコップ
- 長靴
- 非常食

「三菱ふそうホームページ」でお役立ち情報をゲット!

ホームページでは、三菱ふそうの情報や省燃費運転のポイントなどが紹介されています。リコールやサービスキャンペーンの情報なども更新されているため、日ごろからのチェックをお願いします。

<三菱ふそうホームページ>

http://www.mitsubishi-fuso.com/

モバイルサイト 携帯電話でお近くのサービス拠点とAdBlue拠点をラクラク検索

モバイルサイトでは、全国の三菱ふそうサービス工場とAdBlue取扱店を簡単に検索できます。いつでもどこでもクルマの心強い味方としてご利用ください。

QRコードに対応していない機種の場合は、下記のURLを直接入力してください。

http://mmap.mitsubishi-fuso.com/mbl/mftb_m/index.html

魔法の薬？オリーブオイルの意外な効能とは

　イタリア料理などに使われるオリーブオイルは、健康にとてもよいといわれていることをご存知ですか？

　あっさりとした風味とともに、オリーブオイルは食物の消化吸収を助けたり、胃腸の潰瘍をなくしたり、慢性的な便秘を解消してくれたり、さらにはコレステロールを下げて、胆石ができにくくしてくれます。また、血行をよくしてくれるため、動脈硬化による狭心症、心筋梗塞、脳梗塞などの心配が少なくなります。それだけでなく、カルシウムの喪失を抑制して骨を丈夫に保ち続けられるようにしてくれたり、認知症や皮膚の老化などの予防にも一役かってくれているそうです。

　これほどたくさんの効能があるなんて、まるで魔法の薬のようですね。健康法の1つとして、ピザやパスタ、野菜サラダのドレッシングなど、オリーブオイルがたくさん使われている食事をするのもよいかもしれません。ときには毎日の食生活を見直して、万全の体調で運転に集中しましょう。

三菱ふそうトラック・バス株式会社
www.mitsubishi-fuso.com